

国内貨物取扱量日本一の「苫小牧港」で物流の重要性を高校生が学ぶ ～約6割の生徒が物流について大変興味を持ってくれました！～

令和7年6月18日（水）、苫小牧海事事務所では北海道港運協会との共同主催で鶴川高校2年生42名を対象に苫小牧港湾地域の物流施設3カ所で見学会及び港湾荷役機械の体験会を開催しました。

この見学会の目的としては、近年、海事産業の担い手不足が課題となっており、また、港湾の仕事に少しでも興味や関心を持ってもらうことと、物流の役割や重要性についても理解を深めてもらうことが狙いとなっております。

物流業は普段、その重要性を感じるのが難しいですが、食料品、日用品、機械製品、建設資材など様々な物資を、道路、海上、鉄道などを通じ、日々我々のもとに届けてくれるなど、日常生活を支える重要な業種です。

見学会後のアンケートでは、生徒の約1割が「就職先の1つとして物流業界に興味を持った」と回答し、約6割以上が「物流について大変興味を持った」という結果となりました。

参加者

● 鶴川高等学校2年生 42名

▼ 体験会の様子 ▼

体験メニュー

- ① 港湾荷役機械
- ② 水中ドローン

①

港湾施設で実際に活躍する機械への試乗や操縦体験により、港湾業務に興味を持ってもらいました



②

水中ドローンは新たな港湾事業として注目を集めております。インフラの点検など今後の海運業界の分野で利活用が期待されます



▼ 見学会の様子 ▼

見学施設

- ① 苫小牧国際コンテナターミナル（株）
- ② ナラサキスタックス（株）物流センター
- ③ 苫小牧栗林運輸（株）及びRORO船「神泉丸」

① T.I.C.T. 苫小牧国際コンテナターミナル株式会社

TOMAKOMAI International container terminal

- ① 北日本最大の規模と取扱量を誇り、世界各港と結ぶ北海道の玄関口としての重責を担っていることを学びました



② ナラサキスタックス株式会社

NARASAKI STAX CO., LTD.

- ② 倉庫内を見学し、保管のしくみを知ることで、運ばれてきた物資がどのように日常生活と繋がるのかを学びました。



③ 苫小牧栗林運輸株式会社

Tomakomai Kuribayashi Unyu Co., Ltd.

- ③ たくさんの荷物がどのように全国各地に運ばれるのかを船内見学と座学を通して学びました。



参加者の声



企業見学全体を通して、学んだことや感想は、私が普段の生活で当たり前のように使っているものや食べているものは、たくさんの人によって運ばれたりしていて、当たり前なことの裏では色々な方法で物が繋がれて渡されていて、それが物流なんだと学びました。



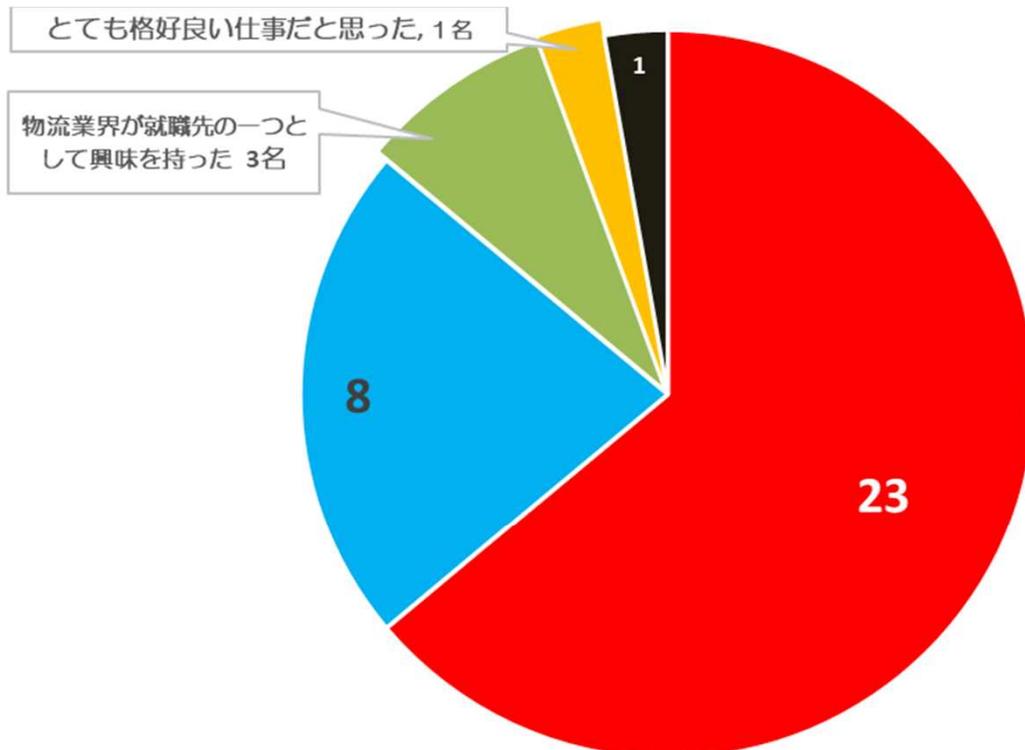
この機会がなかったら恐らく一生経験できないだろうと思われる貴重な体験ができた。身の回りの職業ひとつにしても奥が深くて、技術が半端じゃない。非常にプロフェッショナル。



自分たちの生活のなかでは、湾港の仕事が必要不可欠であるほどに大切なものであることを肌で感じる事ができた。これからもそういった仕事をしてくださっている方々に感謝をもって生活していきたい。

アンケート結果

「見学会を終了して、物流業界に興味を持ちましたか」



- 物流業界が就職先にならないが、物流について大変興味を持った
- 興味を持ったが、そこまでではない
- 物流業界が就職先の一つとして興味を持った
- とても格好良い仕事だと思った
- 全く興味を持たなかった